

環境への取り組み強化

国分 グリーン経営認証に注目

国分（東京都中央区）が環境への取り組みに一段と力を入れている。経営企画部環境担当の山田英夫課長に話を聞いた。

ルとして、「改正省エネ法で義務づけられた」CO₂排出量の報告書のデータを、カーボンフットプリントのデータとして活用できるようにすること」を掲げているという。

から寄せられるデータの精度を、さらに向上させていくことが必要となるが、そのための策として、同課長はグリーン経営認証に注目しているという。「車中での燃費やメンテナンスの管理を行う仕組みが構築される。取得には外部の審査も必要になっていくため、信頼性も高い」。まずは、同社の物流子会社である国分ロジスティクスが、12月を目標に

「荷主と物流の機能、いずれも持つのが卸」という立場で、来る低炭素社会へ向けて積極的に取り組んでいく構えだ。（村上千秋）

卸の存在意義を發揮するため、カーボンフットプリント制度は、今年に入って経産省が基本ルールを整備したが、「特に食品に焦点が定められた制度と言える」（同課長）。そこで、「商品ライフサイクル

この取り組みのゴールとして、3年が経ち、各社での改善が手詰まりになってきた部分もある。そこで、業界に即したルールを作り、お互いに数字をオープンにすることで、同じ尺度で自社のポジションを把握できるようにした」（山田課長）。

同社は昨年、「荷主及び運送事業者共同による『環境負荷管理提言システム』の構築」で、平成20年度グリーン物流パートナーシップ会議で経済産業大臣表彰を受賞。同システムはITツールを活用し、高い精度でCO₂排出量データを収集。特定荷主である同社が協力運送事業者と力を合わせ、CO₂排出量を削減していくこととする取り組みだ。

食品卸の業界団体である日本加工食品卸協会では、特定荷主12社により改正省エネ法ガイドラインを作成し



山田英夫課長